

2 1 (自由提案部門)

事業名 キッズシェフ ～味覚の授業～

実施主体 津和野キッズシェフ

県担当課 保健体育課

事業の成果

事業の目的 [その他]

- 21世紀を担う子どもたちに本当に美味しいものを食体験させ、味覚の発達を促し、同時に食への関心を持たせる。
- 子どもたちに、自分達が暮らしている地域には素晴らしい食材がある事を知らせ、地元の食文化・風土に誇りを持たせる。

事業の内容

- 味覚の授業で、4つの味覚体験及び高級食材試食による味覚の発達の促進。
- プロの料理人による料理の実演、講習と試食で、児童(小学校中・高学年)に味覚へのインパクトを与える。これにより、食に対する興味を持たせる。
- 地元食材の学習を行い、地産地消の重要性や食文化や風土について考えさせる。



目的の達成状況 [概ね達成できた]

- 目的である、本当に美味しいものの食体験や、自分達が暮らしている地域の食材を子どもたちに知らせることはできたと思う。
- 地域の学校からも、授業でやって欲しいという声もある。
- しかし、店をしながらの活動のため、年間活動計画をしっかりと立てることが必要。

反省点・改善点 [特にない]

協働の効果

県との協働内容 [協働しなかった]

- 事業内容が直接的に県の役割を求めるものではなかった。

県への要望事項 [特にない]

反省点・改善点 [特にない]

市町村との協働 [協働して実施した]

- あがん祭り(町のイベント)での発表。
- ケーブルテレビの放送。

事業の継続

事業成果の活用 [活用されている]

- 松江、出雲のシェフを招いて、津和野小学校でキッズシェフを行うことが出来ました。
(主催)日本フランス料理技術組合
(協賛)ヤヨイ食品

事業の継続状況 [助成を受けずに継続実施している]

- 学校側に材料費だけ出してもらい、あとはボランティアでやっている。
- 味覚授業は続けていき、それぞれの家庭単位での食育が根付いていくよう頑張りたい。

協働による発展 [協働により発展できる]

- 食育(教育)関係者との交流により、今後の発展につながると思う。

